

荒川水系河川整備計画（原案）に対する公聴会

日 時：平成 27 年 12 月 20 日（日）13:00～13:20

会 場：②国土交通省関東地方整備局荒川下流河川事務所

発言者：公述人 1

皆さんこんにちは。私は、荒川の一番河口の方、葛飾区から参りました。葛飾区の先は江戸川区でその先は海でございます。この辺はまだ高いのですが、私たちの所はマイナス地帯でございます。干潮になっても水の下というところで、堤防が無ければそこでハゼが釣れるんじゃないかというところから参りました。この計画を読まさせていただきましたのですが、大変沿川にいる我々にとってはありがたいことだと思います。ダムを造ったりですね、調整池を作ったり大変ありがたいのですけれども、どこかから切れてしまえば一番最終的には我々の所に来まして、我々のところが水攻め状態になってしまうというところでございますので、できればですね、調整池、ダム以外にですね、全てがスーパー堤防というような形になってくれればありがたいと思っておりますが、スーパー堤防というのは一朝一夕にできるのもではございませんので何百年もかかると思っております。ということになるとですね、必要ないんじゃないのかなあなんて言う人がいらっしゃいますけれども、私は所々にできても完全に必要だろうと思っております。ということは何かということですね、水が来たときには、ここが救援救助場所の基地になるということですね。そういう高いところがあればね。スーパー堤防の、30h だの、そういうのは、堤防の高さの30倍の長さぐらいを高くしちゃおうということですので、そこは一時避難場所にもなるしそれから補給基地にもなるということで、所により作ってもらってもいいと思っておりますので、どんどんそういう計画をしていただくと沿川の方に住んでいる我々としては大変ありがたいということでございます。ここにですね、今日私意見を述べさせていただきたいと思っておりますのはですね、そのスーパー堤防ができるまで、完全に堤防ができるまでですね、時間がかかる、いつ水がくるかも分からないこういう異常気象でございますし、また大変な台風も大型化してきておりますのでいつ来るか分からない。となりますとですね、堤防ができるまで待っているわけにはいきませんので、一番下の方にいる我々としては、なんとかそれに対応しておかなければいけない。そのためにですね、ボートなどを使いましてですね、皆さんの安全を守っていかうということでちょっとお話しさせていただきたいと思っております。まず私、カスリーン台風、昭和22年ですけどもあってですね、栗橋のところが決壊致しまして、その水がずっと流れてきまして、葛飾区は3週間ほど水の中にありました。当時11歳、6年生でございましたけれども体験しております。その体験からですね、この3週間にわたり水にいるということは本当に大変なんですね。今ですね、テレビなんか見ますと、この間の常総市もそうですけれども、皆さん避難するのに大変なことをして

いますよね。ヘリコプターで行ったり、それからやってますけども、私としてはですね、堤防が切れた、決壊した場所はだめですよ、流されちゃいますよね。それで無ければ垂直避難、要するに上の方に逃げればいいんじゃないかと、こう思っているんです。なぜかというのですね、避難所行っても大変な思いをしているわけですよ。避難所入ったからと言って女性の方なんか衣服の着替えもできないような状態になっちゃっておりますので、それでは大変なわけですね。本来は自分の家にいらればありがたいわけですね。いくら水が来ても3階までは届かない、だいたい2階ぐらいにいれば何とかなるんじゃないか、場所によっては2階でもだめですけど、そこにいればですね、いい訳なんですよ。なにも逃げていくことは無いから。行ったら、大変な思いして、関連死なんていうようなことが起きてしまうわけですから、できれば自分の家とか、隣近所の高いところ、マンションなんかをお借りしてそこにいた方がいい。だけど皆さんが行ってしまうということは何か、ということですね。なんで皆さんで大変なところへ避難しちゃうんだろう。これはですね、一つには、食料が無くなったらどうしようか、水が無くなったらどうしようか、1日2日だったらいいですよ、我々のほうみたいに2週間3週間もなったらですね、それが心配になりますよね。それで避難所へ行っていけばそういうことは心配は無いらろうと思ってみんな行くんでしょねえ。それから一番大事なことがね、具合悪くなったらどうしますか。水がいっぱい来ちゃってて、2mも3mもきてて、何も無いわけですよ。何にも無いところに来ちゃって、歩いてはいかれない、泳いではいかれない、で、具合が悪くなったらどうしよう。だから避難所に行っちゃうんじゃないんですか。その点を我々町内会で皆さんの為に何とか力を出してあげられれば、こんな所に無理して行かなくてもいいんですよ。この避難所に行ってですね、背中が痛くなる板の上に寝てるよりは、自宅のベッドにいた方がいいわけですから。そこでですね、私のほうではボートを買ったんです。ボートといってもですね、手こぎのボートじゃなくてゴムボートでねエンジン付けてあるんですよ。何でこんな買ったかというのですね、私がね、22年の時に避難したときに、たまたま私のうちの隣に2階屋があって、その8畳間に13人の人が避難してきたんですね。その中にね、明日生まれちゃってもいいようなお腹のお母さんがいたんですよ。私11歳でしょ、うちの親父が言うのはね、生まれたらどうしよう、お産婆さんに行くわけには行かないし、連れて行くわけにはいかないよと。いかないですよ。ですから毎朝起きるとですね、私はね私の家はその隣だったもんですから、屋根の上にはいたんですよ、私と、私の親父はね。朝になると大きな声でおい生まれたか、生まれたか大丈夫かって言うのが毎朝の挨拶みたいな。子供だから分かりません。もし生まれたら死んじゃうんじゃないかと思ってね、そのお母さんがね。うんと心配したわけですよ。そんなことがあったもんですから、是非そういう具合が悪くなった人がいた場合は、医療基地まで連れて行ってあげましょう、ということですね、我々町会で話し合まして、エンジン付きのモーターボートを買ったんですね。今、年中練習しています、沢山練習しています。はじめはですね、エンジン付きでもどこ行っちゃかわかんなかったんですけど。あれ難しいんですよ、ハ

ンドルが反対ですからね。ところが今はですね、慣れてきまして、もうどんな路地でも行かれるよっていうところまで慣れました。ですから安心して下さい、安心して自分の家の垂直避難、上にいて下さい、食料届けてあげますよ、それから水もあげますよ、具合悪くなったら言って下さい。ただですね、具合悪くなったらどうやって連絡しますか。聞くとね、皆さん消防署に連絡しますって言いますが、消防署なんか来ませんよ。だって葛飾区は45万人、人がいてですね、消防署にね480人しかいないんですよ。下手すればですね、3交代になっているときに、みんな来てるわけじゃないでしょ、3交代の時にきたら、150人しかいないじゃないですか。45万人、人がいるところに350人、下手すると3分の一の150人で何ができますか。だからそんなのは来ないんだよ。じゃあどうやって連絡するか。みんな縦の連絡だけですよ。区に連絡する、消防署に連絡する、警察に連絡する、自衛隊に連絡する。ところが、周りの人に助けてもらわなくちゃ、本当は駄目なんです。そこで、うちの町会の中で考えたのがですね、ここにちょっとあるんですが、これ水害じゃないんですけども写真のあるところが、真ん中に黒い旗と赤い旗があるんですね。赤い旗と白い旗を使った“現代の狼煙”って呼んでるんですが、それを使ってですね、それで皆さんに連絡しようと。ですから、避難して、はじめは白い旗を出してくれればいいわけですよ。それで例えば水が無くなった、食料が無くなったとかそれから病人がでちゃったとか、うちの親父が熱出したよとか子供が熱出したよとか言うときには赤い旗に代えてくれると、うちはパトロールしますから。パトロールしたらすぐそこに行って積んで医療基地まで連れて行きましょう。医療基地って言うのはやっぱり学校かなんかにできるんですね。食料も学校に来ますので、そういうものはこんであげよう。そうすることによってですね、皆さんが安心していらっしゃるんじゃないかと、いうことをやっております。これはですね、今、当町会ではですね、町会の中の人たちの70%くらいですかね、その人たちがこれを持っておりまして、事前の訓練をやっております。これは水じゃないんですけども、地震の時にも使えるということでやったんですね。これ、近くのマンションなんです。マンションの人たちとですね、みんな持ってますので、地震がきたらですね、安心になったら白い旗をあげておいて下さいよ。というような訓練ですので。これを助ける人はみなさん近所の人なんです。町会の役員でも誰でもないんですよ。隣近所の人がですね、助けよう。というのはどういうことかという、白い旗を出した人はもう一番大丈夫ですよ。赤い旗を出した人、そこへはみんなでもって、白い旗を出した人たちが助けに行きましょう。ですので、助けちゃいましょう。ただ、一番大切なのは、白い旗も赤い旗も出せない人です。みんなが下敷きになっちゃってるとか、なんかしっちゃったとか、どうにもならないですね。そのときは、白い旗を出した人で確認し合ひましょう。こんこんと叩いてね、どうした大丈夫かと、下敷きか、それじゃあみんな助けよう。というようなことで、ここにも書いてありますが、この担架持って歩いている人はみんな近所の人です。それで、出してもらって、助け出しちゃいましょう。というような動きをこうちの方ではさせて頂いておるわけでございまして、そう

いう備えをですね、やって、練習をやっております。

今日は20日ですか。27日の日曜日になるんですけれども、うちのボートを使った訓練がですね、テレビ朝日で放映されることになっております。午後の4時から、27日日曜日の午後の4時からですね、テレビ朝日で、報道ステーションサンデーという中で、2時間特番だと、その一部でしょうけどね、ほんの30秒かそこら分かりませんが、もし時間があったら見てみて下さい。赤い旗を出してですね、船がそれを連れに来て、乗せていくというような、そういう訓練をさせてもらっているのがテレビで放映される予定になっていますので。予定ですので、なんか大きな事件ができちゃうとそれは没になっちゃうそうですので、できないかも知れませんがやる予定になっていますので、見て頂ければありがたいのかなとおもっております。

私の方でもスーパー堤防、ならぬ公園が高台化されるようになりました。なりましてけど、いくら高台化されてもそこまで行く手段がございません。やはり行くためにはですね、ボートが必要であろうかと。それからですね、事前避難、なんにもこないうちに避難するというのでやってみました。駅から150名連れてですね、うちのほうは葛飾区ですから、市川までいったんですが、電車に乗っていったって大変です。車椅子なんか動きません。だから恐らく行かれません。行ったところで、向こうでもってどういう受け入れ体制をとってくれているか、全くありません。みんなで行ってみたら、そこにバスがあって、どうぞ乗って下さい、連れてってくれるということがあれば避難してもいいけれども、そんなこと全くありませんね、雨が降ってるときに行ったら駅の中でびしょびしょで待つてなければいけません。そんなことだったらどうにもなりませんので。やはり、垂直避難、これを一回考えてみて下さい。いろんな問題の中でですね、大変な問題があったんです。報道されておりましたが、レイプ事件なんかもあったそうでございますので、そういうことを考えれば、自分の家ですね、2階、3階にいたほうが一番良いと。ただ、そのためには食料だとか医者だとか、そういうことのために行かれるような手段を取っておけば良いんじゃないかなあと思っております。

このようにこれからも前進していきたいと思っております。

スーパー堤防ができるまでは、私たちががんばっていききたいと思っておりますので、よろしく願います。以上でございます。ありがとうございました。